

第3分科会 討論記録

司会：福嶋紀子
 (松本市北部公民館)
 記録：西向宏介
 (広島県立文書館)

第3分科会「文書館情報窓口としてのホームページ(Webサイト)活用について」の討論要旨は、おおよそ次のとおりである。

福島 幸宏(京都府立総合資料館)

当館では文書解題の発信を検討しているところだが、件名目録の発信を続けた上で解題を充実させることもできるはず。出せ

るものは出しておいていいのではないか。また、来館を重視する立場からバーチャル閲覧室は指向しないとのことだったが、保存上問題のあるものについては画像資料をネット上に出してもいいのではないか。

中川

件名目録をサイトに出すためのマニュアル化が必要だが、詳しい職員がいない現状では、件名目録の更新に対応できない。古い件名目録をいつまでも更新せずに放置しておくのは、発信情報としては問題がある。確実に出せるものを出すというスタンスであり、また職員の負担の問題も考えてのことである。

画像資料については、大型図面などネットに出せるような目玉となる資料が今の時点では無い。

石川 雅明(IEEL泉野教室)

文書群を単位とする目録を作るということだが、利用者の立場としては、群の中の要素が知りたいのに、解題だけでは利用しにくい。PDFでもいいから、とにかく利用者が自分で調べられるようにして欲しい。電話でのレファレンス対応についても、こちらで調べますと館員の方から言われてしまうことがある。これでは、自分で資料を調べる機会を奪われることになる。

中川

来館利用が基本という考え方であり、来館すれば目録は閲覧室で見ることができる。ホームページについては、今できる範囲のことで可能なことはやる、今できないことはとりあえず閉鎖する、残りはレファレンスで対応するという形で考えている。

毛塚 万里(昭和のくらし博物館)

現在のネットの普及率は目覚ましいものが

あるが、ネットの利用者は館の事情などを考えてホームページを見たりはしない。件名目録を外せば時代に逆行していると、シビアに受け取られる。更新できなくても外すよりは良いし、利用者に提供すべきである。理由を示さないままに件名目録を外すと、突然見られなくなった利用者から必ず批判を受けることになる。

また、閲覧室で利用者が直接調べることができるということだが、そのことがアーカイブズの強みであることをもっと表現すべきである。閲覧室に行けば自分で調べることができるという点を、意外とPRできていないのではないか。資料にアクセスできる、自分で調べられるということをもっとWeb上に出していかないと、利用者はWebだけで判断することになる。

伊藤 康（鳥取県立公文書館）

新潟県立文書館では、公文書についてどのような情報発信をされているのか。

中川

文書群の説明と点数のみで、公文書についてはまだ情報発信が十分にできていない。

島村 芳宏（さいたま市総務局総務部市政情報課）

報告を聴くと、館としての考えと報告者としての考えとが錯綜しているように思える。今回のリニューアル案は館全体の意見なのか報告者の意見なのか。このリニューアル案だと、世間は後ろ向きと見てしまうであろう。そこをきちんと説明できるようにしておかないといけない。また、業者委託については検討したのか。

確かに、来館して利用するのが基本だとは思いますが、件名目録を出さない理由については、積極的に出しておくべきである。また、来館が基本と言いつつ、一方で来館しなくても役立つ情報を考えるというのは矛

盾しているのではないか。

中川

今回の案はたしかに自分がすべて考えた案である。ただし、上司への報告は行っている。

毛塚

ホームページが工事中や未更新の状態でも、その理由が表記されていれば良いと思う。しかし、件名目録を外す明確な理由を外部へ言えないようなら、しない方がいい。

藤吉 圭二（高野山大学文学部）

件名目録データについて教えて欲しい。また、職員の負担の問題からデータベースの更新などができないということなら、近くの大学にボランティアなどの形で協力者として巻き込むことも考えていいのではないか。また、迷惑メールへの対応についても教えて欲しい。

中川

ボランティアについては考えたことがなかったので検討してみたい。件名目録は、まだ当館では紙媒体（手書き目録）が主体であり、すべてデータベース化していないのが実状。来館してもらえれば、閲覧室に紙目録を配架しているので、見ることができる。迷惑メールについては、一応フィルターをかけており、1日に4回ぐらいチェックしているが、迷惑メールは結構入っている。

福島

大学からの学生ボランティアについては、学部生が動員されることもあり、失敗例も多く聞いている。ボランティアよりも雇用（アルバイト）という形で契約されるほうが良い。

石原 佳樹（三重県生活部文化振興室県史編さんグループ）

自分もホームページを一人で担当しており、更新が大変なのはよく分かる。また、迷惑メールも毎日来ていて、その対応に苦慮している。迷惑メールへの対応にはどのくらい時間を取られているか知りたい。

中川

迷惑メールのチェックには毎日2～3時間を費やしている。

石原

新しい情報を日々更新する煩わしさがあるのは分かるが、件名目録を外してしまうというのは、私も時代に逆行していると思う。利用者にとっては、やはり解題だけでは十分と言えないのではないか。

ホームページというものは、なにも一気に作らなくてもいい。出来たところまで出せばいいのだと思う。報告を聴いて気になったが、「必要ない」というのは誰にとって必要ないというのか。件名目録はぜひ入れて欲しい。

伊藤

歴史離れが今進んでいるように思う。当館で巡回講座を実施した際に、講座参加者へのアンケートで当館のホームページを見たことがあるか訊いてみたところ、見たという人はゼロだった。有効な広報ツールは新聞であり、今のところ、ホームページは有効なツールとなっていない。鳥取県の場合、公文書館のホームページは現在県庁のホームページに入っており、ビルダーで作成していた時よりも簡単なページとなり、更新しやすくなった。公文書館の認知普及という点では、今後積極的にホームページは活用していくべきだと考えている。

件名目録を外したことへの意見が大半を占める形となったが、司会からは、現時点における職場体制の中で出来ることを模索したものであり、後ろ向きの取り組みとは思われないという趣旨のコメントがあった。

また、新潟県のリニューアル案は、所蔵文書の全体像を示し、来館利用者の増加をはかるといった課題を踏まえてのものであったが、報告者の中川氏からは、館の将来的なビジョンをどう考えるかということがホームページの作成にとって重要であるという趣旨の発言もなされた。

なお、本分科会は機器の都合で録音ができなかった。そのため、発言の全てを記録し切れておらず、発言の順番も若干前後しているところがある。また発言者の意図を正確に汲み取れていない部分もあると思われる。お許し願いたい。（記録）

以上が討論のおおまかな内容である。